

# 読書を通して得た知識から 自分の生き方を模索してほしい

中・高6年制一貫教育を進めている中で、ひとつの形として成果があらわれた「図書館教育」とはどのような教育なのか。今後もよりよい教育のあり方を追究し続ける中高一貫教育について、深谷校長に伺いました。

## 自ら問題を発見し 解決していく参加型の学習

6年制一貫教育に取り組む上で、これまでに意識してきたことは、キャンパスが別々ということを活かし、中学校、高等学校で教育のすみ分けをきっちり行うことです。

現在、前半3年間の中学校では、各教科の基礎学力を身につけると共に生徒各自のレベルに合わせた各種検定を奨励し、それぞれの到達度を測るという試みを行っています。その実として、漢字検定では全国で3校しか与えられない文部科学大臣賞受賞、英語検定では優良学校賞受賞、さらには個人で中学2年生の生徒が

英検準1級を受賞、という形で現れてきました。

後半3年間の高校では、中学校で学んだ基礎的な学習を発展させ、コース別に具体的な進路実現に向けての教育を展開しています。特に、今までの受身の学習形態から自ら問題を発見し解決していく参加型の学習へと導いていくことで、自ら考える力を養うことができるように教育を展開しているところです。

特にこれからの社会で求められてくるものとして質の高いコミュニケーション能力および正式の場で話ができるプレゼンテーション能力の養成は重視しています。中高6年を通じて金城の生き方学習プログラム「総合的な学習」においては、中1の頃、手元の原稿ばかりを見て発表していた生徒が、学年が上がると共にその目線もあがり、前を向いて多くの人たちにはっきり分かりやすく話すことができるように成長していくのが手に取るように分かります。これも6年という期間をかけているからこそ可能になったことだといえます。大学などから審査に来られた先生方からも非常に高い評価を得ています。

中高6年間、本校の教育の根幹である聖書の学び、総合的な学習、そして生徒自身が参加する学校活動の諸体験を通じて人としての生き方をじっくり考え探る教育が今まで以上に充実してきています。新しい教育のキーワード「自立、自律、連帯」

を身につけた女性の育成を目指し、教員も試行錯誤を重ねながらドキドキ感をもって生徒と一緒に生き方について学び、主を畏れる知恵の獲得術を身につけることを目指すべく日夜頑張っています。

## 「図書館教育」の導入 による学習効果

6年制一貫教育の特色の一つは中高を通じて「図書館教育」を採用されていることです。具体的なプログラムとしては、中学校では春に1回、高校では春と秋の2回読書週間を設けホームルームの時間を使って「HR読書会」を行っています。一冊の本についてグループごとに意見を出し合うため他の人の考え方を学ぶことができます。

このプログラムは中高6年間継続して行うため読書が苦手な生徒や本離れしている生徒でも、卒業までに少なくとも10冊以上の本を読み、自分の感想を纏め上げること、いろいろな人たちの考えを聞き合うことなどができます。生徒たちが書いた感想文は各担任、図書課の教員が読み、その中で優れた感想文は校内でも表彰し、校外のコンクールにも応募したりしています。

人間にとって、見たり、聞いたり、読んだりして得た情報を整理・判断して表現することは基本的な事項としてとても大切なことです。今はインターネットの普及によって様々な形で情報は簡単に手に入れることができる時代となりましたが、やはり最も確実で堅実な方法は読書です。書物に触れて著者の意図を正確に汲み取り、想像力を養い、心を静めて



金城学院中学校・高等学校  
深谷 昌一 校長

自分の意見・感想を苦しみながら纏めることも自分の生き方を構築していく上でとても重要なことだと考えます。

### 「図書館教育」の成果と今後の取り組み

私自身も学生の頃に、学校の図書館で手にした書物が、自分の生き方を考えるうえで手がかりとなりました。読書は自分の知らない世界や発見に出会う窓口のような役割も果たしていると思います。書物を読み、内容を分析し、視野を広げていくという人間特有の能力を伸ばせるのは、読書活動を通してではないでしょうか。

2006年2月に、水野綾子さんが青少年読書感想文全国コンクール内閣総理大臣賞を受賞しました。そのとき彼女は、毎朝の礼拝などで先生の話に耳を傾けるうちに、人の話に対して自然と心を開いて聞けるような訓練を気づかぬうちに6年間積み



上げていて、それが本を読むときに著者の話に素直に心を開ける素地になったのではないかと話してくれました。また、金城でよきライバルに出会えたと感じており、周りの生徒たちも水野さんの受賞を自分のことのように喜ぶとともに、何より努力すれば自分も賞に近づけるかもしれないという目標になったのではないのでしょうか。

図書館教育は、これからも継続して行っていきたいと思います。生徒にはコンクールなどへ積極的に参加してほしいと思いますが、賞を取る、取らないは別として、自分の書いたものが他人にどのように評価され、



どのような影響を与えるかということを実際に体験することは大切です。言い換えれば本を読み、感想文を書き、自分の考えをまとめることで大きな達成感が得られます。それを図書館教育を通して伝えていければ、必ず生徒一人ひとりの生き方学習にも結び付けてくるのではと考えています。

### 【高等学校】過去の受賞実績

#### 〔団体〕

2000年 2月 第45回青少年読書感想文全国コンクールにおいて「読書感想文推進大賞」を受賞  
2000年12月 「子ども読書年」を記念に「平成12年度読書活動優秀実践校」として文部大臣より表彰される

2006年 2月 第51回青少年読書感想文全国コンクールにおいて「学校賞」を受賞

#### 〔個人〕

##### 青少年読書感想文全国コンクール

- ・1987年度 全国学校図書館協議会賞
- ・1997年度 図書館協会賞、優良賞
- ・1998年度 知事賞、教育委員会賞
- ・1999年度 知事賞、図書館研究会賞
- ・2000年度 優良賞
- ・2001年度 知事賞、教育委員会賞、優良賞
- ・2002年度 図書館協会賞
- ・2003年度 優良賞
- ・2004年度 知事賞
- ・2005年度 内閣総理大臣賞、知事賞

##### 愛知県私学読書感想文コンクール

毎年、最優秀賞、優秀賞、優良賞を1～4名が受賞

## ■ 第51回青少年読書感想文全国コンクール内閣総理大臣賞受賞

### 人の言葉に素直に心を開けるようになったことが金城での6年間を通して得たかけがえのない財産



水野 綾子さん  
2006年3月卒業

金城を離れて3か月。毎朝の礼拝が自分にとって大切な時間だったことを、今さらながら感じています。毎日、先生方や友だちの話に耳を傾け、聖書を読む—それは人の言葉に素直に心を開き、何かを考えさせられ、また自分自身とも向き合

える時間でした。短いひとときでしたが、静かに流れ、そして温かな時間だったと思い出されます。

高校卒業の目前に、思いがけず読書感想文で内閣総理大臣賞をいただけたのも、礼拝の日々があったからだと思います。その積み重ねが私に、本の中の言葉に心を開かせ、考えさせ、蓄積されたものに実を結ばせたのではないのでしょうか。

たくさんの言葉を胸に刻むことのできた金城での6年間に、心から感



謝しています。そしてこれから生きていく中でも、それらの言葉が私を支え、拠り所となるであろうことを幸せに思っています。